

同志社大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科
専任教員 2014 年度研究業績一覧

A

秋林 こずえ

・論文

「ジェンダーの視点と脱植民地の視点から考える安全保障—軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」『平和研究「安全保障」を問い直す』第 43 号, 2014 年 10 月, pp.51-68。

・その他

「米軍内で性暴力と闘う」『女性・戦争・人権』13 号, 2014 年 12 月。

・学会報告

"Militarism in Japan" Women's International League for Peace and Freedom, Asia Pacific Regional Meeting "Militarisation in the Pacific: Women, Peace and Security", オークランド工科大学(ニュージーランド), 2014 年 4 月 26 日。

"Deepening militarization in Japan and the impacts of US security policies: A gender analysis," International Symposium "Rethinking the Asia "Pivot": Challenging Everyday Militarisms & Bridging Communities of Women", ラトガース大学(米国), 2014 年 12 月 4 日。

・社会活動

国連安全保障理事会決議 1325 号国別行動計画策定関西意見交換会(2014 年 6 月 23 日, 同志社大学)。

国連安全保障理事会決議 1325 号国別行動計画策定市民連絡会メンバー(学識経験者)。

C

Gavin James Campbell

・論文

"An Unbroken Chain Between Us: Thoughts on Missionary Encounters" 『同志社アメリカ研究』第 51 号, 2015 年 3 月, pp.1-20。

G

Anne Gonon

・共著

«Quand les femmes s'engagent dans la politique nationale: quelques considérations sur la féminisation et la démocratisation du monde politique japonais » Christian Galan, J-P Giraud (ed.), *Individu-s et démocratie au Japon*, Toulouse, Presses Universitaires du Midi Tempus, 2015/03, p.175-189.

・論文

« Entendre la souffrance des enfants – La loi relative à la prévention de la maltraitance infantile, » *Japon Pluriel* 10, 2014/12, pp.89-100.

・その他

「福島原発事故後の健康を考えるーアナンド・グローバーを迎えて」『グローバル・スタディーズ』第5号, 2015年3月, pp.145-155 (共レポート 皆川萌子)。

・学会報告

« Le tribunal populaire sur l'énergie nucléaire – enquête sur le pouvoir des intellectuels japonais, » Colloque Cogérer les dégâts du désastre nucléaire de Fukushima, CLERSÉ/CNRS Université de Lille et CRESPEA/CNRS Université Paris 8, 2014/11/27.

・社会活動

フランスリール大学, 2015年1月28日, 大学院教授資格の審査に副査。

巖 善平

・共著

「中国における少子高齢化およびその対策」関西日中関係学会ほか編『現代中国の諸問題と日中関係』桜美林大学北東アジア総合研究所, 2014年7月, pp.27-43。

"Labor Market Transformation in Shanghai," *Lewisian Turning Point in the Chinese Economy: Comparison with East Asian Countries*. Ryoshin Minami, Kwan S. Kim and Fumio Makino (editors), Palgrave Macmillan. 2014.6, pp.155-180.

・論文

「中国における戸籍制度改革と農民工の市民化ー上海市の事例分析を中心に」『東亜』第563号, 2014年5月, pp.80-90。

「中国の大都市における階層形成と世代間階層移動の実証分析—1997年・2008年天津市民調査に基づいて」(嚴善平・魏禱)『アジア経済』第55巻第3号, 2014年9月, pp.2-32。

「現代中国における教育の発展と格差—CHIP 調査の個票データに基づいて」『中国経済研究』第11巻第2号, 2014年9月, pp.31-55。

・その他

『農村から都市へ—1億3000万人の農民大移動』2014年5月(韓国語版), 著者序文。

「中国の食糧安全保障と戦略的農業への展望」『日中経協ジャーナル』第249号, 2014年10月, pp.2-5。

「中国は『少子高齢化』でも成長し続ける理由」『プレジデント』, 2014年12月29日, pp.125-127。

・学会報告など

自由論題報告・「現代中国における教育の発展と格差—CHIP データに基づいて」日本現代中国学会2014年度関西部会大会, 龍谷大学, 2014年6月7日。

座長・「個別報告: 中国における農村職業教育の展開と役割」地域農林経済学会近畿支部大会, 桃山学院大学, 2014年7月12日。

討論者・「自由論題3: アジアの経済」2014年度アジア政経学会東日本研究大会, 防衛大学校, 2014年10月18日。

自由論題報告・「共産党員の諸相および党員身分の決定要因」2014年度日本現代中国学会全国学術大会, 神奈川大学, 2014年10月26日。

自由論題報告・「中国の労働市場における就業選択および収入決定のダイナミズム」2014年度中国経済経営学会全国大会, 東京大学, 2014年11月9日。

司会・「企画分科会: アジアにおける企業と経済開発—企業レベルデータによる計量的アプローチ」／「共通論題: 現代アジアにおけるグローバル化と排他的ナショナリズム」2014年度アジア政経学会西日本大会, 京都大学, 2013年11月29日。

・招待講演

「人口動態からみた中国経済の行方」日本経済研究センター・「シリーズ 現代中国を知る」セミナー第3回, 大阪, 2014年8月29日。

「人口・農村問題から中国の「いま」を考える」環日本海経済研究所・第2回協賛会セミナー, 新潟, 2014年9月10日。

「共産党員の諸相および党員身分の機能」科研費基盤研究(A)研究会, 法政大学, 2014年10月4日。

「党员プロフィールと党员機能—CHIPS データから」 科研費基盤研究(A)国際シンポジウム, 法政大学, 2015年2月15日。

「戸籍制度改革と都市化政策」 財務総合政策研究所第3回中国研究会, 東京, 2015年2月25日。

「パネル討論 2015年の中国を読む—新常态の行方は」 日本経済研究センター主催, 東京, 2015年3月19日。

・社会活動

中国経済経営学会 会長

アジア政経学会 理事(定例研究会担当)

日本現代中国学会 理事(2015年度全国学術大会担当)

日本農業経済学会会誌『農業経済研究』 編集委員

日本華人教授会議 幹事(学術交流委員会・政治経済委員会副査)

I

位田 隆一

・論文

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(疫学・臨床研究統合指針)をめぐって」『京都府立医科大学雑誌』第123巻第8号, 2014年8月, pp.537-544。

「グローバル・ジャスティスにおける「開発の国際法」の意義—「実質的平等」の展開と到達点」『世界法年報』第34号, 2015年3月, pp.164-187。

・その他

(講演翻訳)ソラージ・ホングラダロム「アジア的生命倫理か, アジアにおける生命倫理か—新しい方向, 新しい挑戦」(位田隆一訳), 『比較法学』第48巻1号, 2014年6月, pp.151-171。

(シンポジウム記録)「国際生命倫理から見た宗教研究の課題」(公開シンポジウム「宗教と対話—多文化共生社会の中で」)『宗教研究』第88巻別冊, 2015年3月, pp.14-16。

(追悼文)「田中則夫理事長を悼む」『世界法年報』第34号, 2015年3月, pp.3-4。

・学会報告

「グローバル・ジャスティスにおける「開発の国際法」の意義—「実質的平等」の展開と到達点」 世界法学会 2014年度研究大会, 東北大学, 2014年5月17日。

「再生医療の生命倫理ガバナンス—法による医療と研究の規律体制の意義と題」 第26回日本生命倫理学会年次大会, 公募シンポジウム「再生医療の生命倫理ガ

バランス」(位田隆一・森崎隆幸・一家綱邦), 浜松, 2014年10月25日。

「降圧剤研究不正事案をきっかけとする臨床研究の改革—日本高血圧学会の対応を中心として」第26回日本生命倫理学会年次大会, 浜松, 2014年10月25日。

« Dignité humaine en droit et éthique au Japon - La pratique boîteuse ou la diversité orientale ? », RUIB (Réseau Universitaire International de Bioéthique) Workshop, Université Internationalx de Monaco, Monaco, 2014年11月27日。

“Reconstructing Biomedical Research : Lessons Learned from Valsartan (Diovan) Scandals in Japan” International Workshop on Research Integrity and Clinical Ethics(京都大学応用哲学倫理学センター(CAPE)・科研費基盤(B)「再生医療新法時代の生命倫理ガバナンス」(位田隆一研究代表)共催), 京都大学, 2015年3月19日。

“New Developments of Bioethics Governance System in Japan : An Overview” Kyoto International Workshop on Bioethics Governance 2015 “Bioethics Governance in the Era of Regenerative Medicine”(科学研究費補助金基盤(B)「再生医療新法時代の生命倫理ガバナンス」(位田隆一研究代表), 同志社大学, 2015年3月29日。

・招待講演

「臨床研究のあり方に関する提言」日本高血圧学会臨床高血圧フォーラム, 広島, 2014年5月24日。

“Regenerative Medicine Using Pluri-potential Stem Cells (Japan’s Example) ” 10th Global Summit of National Ethics Committees, Mexico City, Mexico, 2014年6月22日。

“Japanese Ethical Standard of the Beginning of Life in Bio-medical Research” (Poster), 10th Global Summit of National Ethics Committees, Mexico City, Mexico, 2014年6月22日。

「医学研究と法・生命倫理—ひと・いのち・社会」岡山大学法学部・法学会講演会, 岡山大学, 2014年7月3日。

「再生医療新法：その内容と最新動向」京都大学 CiRA 上廣倫理研究部門主催第2回ワークショップ, 京都大学, 2014年7月9日。

「生命倫理から見た宗教研究の課題」日本宗教学会第73回学術大会公開シンポジウム「宗教と対話—多文化共生社会の中で」同志社大学, 2014年9月12日。

「国際生命倫理規範の現状と課題—医学研究と法・生命倫理」(邦語), 国立中興大学(台湾), 2014年9月23日。

“Ethics of Citizen Involvement and Health in Japan : Who decides and How?”
European Commission International Dialogue on Bioethics, “Public
Involvement” 欧州連合本部(ブリュッセル), 2014年10月22日。

“End of Life Care in Global Perspective,” Workshop “Building the
Collaborative Research Platform and Professional Training” 国立台湾大学,
台湾, 2014年12月21日。

“Protection of Research Subjects: International Bioethics Development from
Biobank to the Ebola,” International Workshop Protection of Human
Subjects in Research, 国立精華大学, 台湾, 2015年1月21日。

「生殖細胞の再生とその臨床応用に関する倫理的法的課題」日本生殖再生医学
会第10回学術集会, 京都, 2015年3月22日。

「iPS細胞時代の到来と生命倫理」, 同志社大学と独立行政法人国立循環器病研
究センターの交流に関する包括協定締結記念シンポジウム「iPS細胞時代の移
植医療と生命倫理—ひと・医療・社会—」 同志社大学, 2015年3月25日

「ガイドラインの先にあるもの—法的・倫理的視点から」日本脳卒中の外科学
会 STROKE2015, 広島, 2015年3月27日。

・社会的活動

内閣府総合科学技術会議専門委員(生命倫理専門調査会)(2014年10月まで)

厚生労働省厚生科学審議会 専門委員(2015年3月まで)

京都府立医科大学研究活動の改革に関する検討委員会委員長

日本高血圧学会臨床研究にかかわるあり方委員会委員長

世界法学会 理事長(2014年5月まで), 監事(2014年5月より)

日本生命倫理学会 常務理事・国際交流委員長

(一財)国際法学会 評議員

日本国際連合学会 理事

WHO(世界保健機関)Ethics Working Group on Ebola Virus Disease, Member
Oxford Uehiro Centre for Practical Ethics(英国), International Advisory
Board, Member

Asian Bioethics Review, Member of the Board

池田 啓子

・編著

“NCC Online Guide to English-language Publishing for Japanese Scholars,”
Co-executive editor (with Jordan Sand), North American Coordinating
Council on Japanese Library Resources.

・学会報告

“Deilemma of Care-giving in the post-industrial societies: Case studies from
the US and Japan,” An invited session (Global Initiative on Caregiving for
the Elderly), held in conjunction at the 112th annual meeting of American
Anthropological Association, Washington DC, November 2, 2015.

・その他

アジアにおけるアジア学会 (AAS-in-ASIA 2106@Doshisha) 大会事務局長
Member of the organizing committee of AAS-in-Asia, the Association of
Asian Studies

Advisory Board of Comparative American Studies: An International Journal,
SAGE Publication, ISSN 1447-5700.

International Advisory Board of IFUSS (International Forum for US
Studies) at University of Illinois, Urbana, Champaign
Manuscript reviewer for the American Anthropologist

今井 ナタニエルアゴラ

・共著

Agola N. O. and Trinh H. N, “Economic structural transformation and equity in
Vietnam: Lessons from Post-War Japan,” *Journal of Economics and Sustainable
Development*, Vol. 6, No 8, April 2015, pp.168-176.

・学会報告

“Africa and Asia, Entanglements in Past and Present: Organizing
Committee Member and Panelist, ” GRM International Conference ,
Doshisha University, July 26-27, 2014.

・招待講演など

“Investing in Africa: Beyond Risk Perception to Pragmatic Risk
Management, ” Japan-Africa Business Forum, Tokyo, June 10-11, 2014.

・社会活動

Special Advisor on Project Finance and Public Private Partnerships to the
Governor of Kisumu County, Kenya. Specific Mandate: Planning and

advisory work on concept development and project financing and development of industrial park (August 2014, Present).

J

鄭 柚鎮

・論文

『慰安婦』問題とポストコロニアル状況—『女性のためのアジア平和国民基金』をめぐる論争を中心に—『人権問題研究』(大阪市立大学人権問題研究センター編)通券 35 号第 14 号, 2014, pp.137-148.

K

加藤 千洋

・共訳

『私は中国の指導者の通訳だった—中日外交 最後の証言』岩波書店, 2015 年, 338 頁(鹿雪瑩と共訳)。

・その他

「知日派指導者胡耀邦の子息来日で思いだしたこと」『日本記者クラブ会報』第 535 号, 2014 年 9 月 10 日。

「日中記者交換から半世紀に願う」『日本記者クラブ会報』第 538 号, 2014 年 12 月 10 日。

・学会報告など

司会・コーディネーター「共通論題・日中関係の行方—交流の現場から」日本現代中国学会 2014 年度関西西部会大会, 2014 年 6 月 7 日, 京都。

コメンテーター・パネリスト「日本報道, 中国報道の半世紀—日中記者交換協定 50 周年記念」北海道大学・同志社大学グローバル・スタディーズ研究科共催シンポジウム, 2014 年 9 月 28 日, 北海道。

集中講義「日中メディア比較」北京大学現代日本学研究センター, 2015 年 3 月 15-20 日, 中国・北京。

・招待講演

「習近平オンリーワン体制の中国」京都日米協会, 2014 年 5 月 26 日, 京都。

「ポスト改革開放時代の中国—習・李政権はどう動く」NPO 法人大阪府日中友好協会総会, 2014 年 5 月 31 日, 大阪。

「中国の人口問題を考える」朝日カルチャーセンター, 2014 年 6 月 6 日, 大阪。

「気になる隣人・中国の行方」同志社校友会・栃木県支部総会，2014年6月28日，栃木。

「気になる隣人・中国の行方」三重県支部総会，2014年7月6日，宇都宮。

「中国が直面するジレンマ」同志社大学・東京都中央区連携連続講座，2014年10月10日「経済格差」，17日「民族問題」，24日「少子高齢化」，東京。

「習近平時代の中国―隣人とどう付き合うか」朝日カルチャーセンター，2014年7月13日，名古屋。

「習近平中国と日本」商学部東京校友会総会，2014年10月18日，津。

「中国の今，日中関係の今後」名古屋中法人会，2014年10月27日，名古屋。

「習近平オンリーワン体制の中国と日本」大阪船舶倶楽部，2014年11月11日，大阪。

「日中韓3カ国 東アジアの文化と平和」基調報告・パネリスト，2014年11月14-15日，中国天津・南開大学。

「文化交流と留学」孫文記念館友の会30周年記念フォーラム，2014年12月20日，神戸。

「日中朝トライアングルの今を読む」朝日カルチャーセンター，2015年1月12日，横浜。

「誰が京都・奈良を空襲から救ったか―日中三カ国が絡む秘話」朝日カルチャーセンター，2015年2月27日，大阪。

・社会活動

・テレビ出演「BS朝日2時間スペシャル日本の国境地帯は今」番組企画・ナビゲーター，2014年12月29日放送。

菅野 優香

・共著

「パンパン，レズビアン，女の共同体―女性映画としての『女ばかりの夜』(1961)」小山静子・赤枝香奈子・今田絵里香編『セクシュアリティの戦後史』京都大学学術出版会，2014年7月，pp.153-171。

・論文

「ゴシップ，あるいはラディカルな知」『ユリイカ』2015年2月号，pp.176-183。

・学会報告

“Distance in Crisis: Transqueer Movements and the Privileges of Distance,” Yuka Kanno and Claire Maree, 10th Crossroads in Cultural Studies Conference, Tampere, Finland, July 3, 2015.

・招待講演など

「クィア・スタディーズの現在—アメリカと日本の状況から考える—」関西社会学会 研究活動委員会特別活動セクシュアリティ/クィア・スタディーズ研究グループ セミナー講師, 同志社大学, 2014年7月27日。

“Queer Connectivity: Film Culture and Festivals in Japan,” Invited Talk, Representations and Self-representations in Queer(s) in East Asia, University of Vienna, Austria, March 20, 2015.

菊池 恵介

・編著

三宅芳夫・菊池恵介編『近代世界システムと新自由主義グローバリズム—資本主義は持続可能か?』作品社, 2014年, 400頁。

・論文

「岐路に立つヨーロッパ—EU議会選挙における極右躍進の背景」『同志社グローバル・スタディーズ』第5号, 2015年3月, pp.99-118。

・その他

「批判的メディアをいかに再生するか?—フランスのネット新聞「メディアパート」の編集長に聞く」, 「レイバーネット」2014年11月15日, <http://www.labornetjp.org/news/2014/1114kikuti>

「風刺の精神とは何か?—パリ銃撃事件を考える」, 「レイバーネット」2015年1月15日, <http://www.labornetjp.org/news/2015/0115kikuti>

・招待講演など

« La minorité coréenne face à la xénophobie d'Etat », Séminaire Migration & Multi-culturalisme, Regards croisés France-Japon : le Japon ontemporain au prisme des interrogations sur le racisme et le traitement des minorités en Europe, Science Po Paris / Centre d'Etudes Européennes, 2 avril 2014.

« La querelle des rochers – La doctrine de la *Terra nullius* et l'expansion coloniale japonaise », Séminaire du LCAO (Langues et Civilisations de l'Asie Orientale), Université Paris Diderot, 30 avril, 2014.

「ハイチへの賠償金返還を求めるフランスの黒人運動」同志社大学アメリカ研究所部門研究 第7部門「戦後日本における植民地支配責任論の系譜と米国の存在」, 第三回研究会, 2015年2月21日。

「表現の自由と宗教的尊厳は共存できるのか?—パリ, コペンハーゲンでの襲撃事件を踏まえて」同志社大学「一神教学際研究センター(CISMOR)」公開講演会, 2015年3月14日。

M

松久 玲子

・その他

「現代メキシコの若者たちの結婚と恋愛」『アジア研ワールド・トレンド』No.226, 2014年8月, pp.40-41。

・学会報告

“La Globalización y Género en America Latina” Coordinator and moderator of the Panel at the sixth Internacional Conference of the Latin American Studies Council of Asia and Oceania (CELAO) 2014, in Kyoto University, 2014.9.18.

「ニカラグアのフェミニズム運動と女性労働者への支援活動」日本ラテンアメリカ学会西日本部会研究会, 同志社大学, 2014年12月20日。

峯 陽一

・編著

Africa and Asia Entanglements in Past and Present: Conference Proceedings (edited by Yoichi Mine and Scarlett Cornelissen), Kyoto: Doshisha University GRM Program, 2014, 275 pp.

・論文

「アメリカ合衆国と南アフリカ共和国の『ブラック・パワー』—交差し分岐する二つの世界」『立教アメリカンスタディーズ』(立教大学アメリカ研究所)36号, 2014年, pp.55-70。

“Embracing Human Security: New Directions of Japan’s ODA for the 21st Century” (co-authored with Sachiko G. Kamidohzono and Oscar A. Gómez), JICA-RI Working Paper, No. 20, March 2015.

・翻訳

ネルソン・マンデラ『自由への容易な道はない』(監訳・峯陽一／翻訳・鈴木隆洋)青土社, 2014年, 312頁(解説含む)。

・その他

「持続する力を讃えて」山本哲史編『人間の安全保障を求めて—東日本大震災被災者のための仮設住宅における支援活動の現場から』(Human Security 文庫)「人間の安全保障」フォーラム, 2014年, pp.252-263。

「生存基盤指数が見せる世界—地球圏・生命圏・人間圏の持続可能性」(佐藤孝宏と共著)『学術の動向』第19巻第10号, 2014年10月, pp.79-82。

・講演・学会発表

“Publications on South Africa in Japan”, *South Africa Japan Dialogue to Commemorate Twenty Years of Democracy in South Africa and Fifty Years of Solidarity and Cooperation with the People of Japan* (Symposium), Residence of the Ambassador of the Republic of South Africa, Tokyo, May 17, 2014.

“Embracing Human Security: New Directions of Japan’s ODA in the 21st Century” (Oscar Gomezと共同発表)人間の安全保障学会2014年度学術大会, 東北大学2014年9月7日。

“Politics and Popular Perceptions in South Africa and Zimbabwe,” School of International Studies, Peking University, November18, 2014.

“The Past, Present and Future of Africa,” School of Asian and African Studies, Beijing Foreign Studies University, November21, 2014.

“The End of Development?,” Department of International Relations, Tsinghua University, November 24, 2014.

「南アフリカの『民主的開発国家論』再考」2014年度第七回研究集会(新興国ポリティカル・エコノミー科研・東アジアポリティカル・エコノミー科研)政策研究大学院大学, 2015年3月31日。

N

内藤 正典

・単著

『イスラム戦争 中東崩壊と欧米の敗北』集英社新書, 2015年, 252頁。

・編著

『イスラーム世界の挫折と再生』明石書店, 2014年, 356頁(執筆箇所: 序章「中東・イスラーム世界は、なぜここまで墮落したのか」pp.11-23, 第2章「イスラーム社会における民主化の希望と失望」pp.86-111)。

・論文

「中東崩壊の危機とトルコ」『中東協力センターニュース』, 2014年8/9月号, pp.45-51。

「『イスラーム国』問題の縮図としてのトルコ」『世界』No.863, 2014年12月, pp.196-205。

「トルコはなぜ『イスラーム国』掃討作戦に参加しないのか」『外交』第29号, 2015年1月, pp.102-107。

・その他

現代のことば「中東の親日感情と集団的自衛権」『京都新聞夕刊』2014年5月21日。

現代のことば「ラマダン月のおぼんざい」『京都新聞夕刊』2014年7月23日。

現代のことば「中東の紛争と宗教」『京都新聞夕刊』2014年9月18日。

現代のことば「日本を突き抜ける人物とは」『京都新聞夕刊』2014年11月18日。

「識者評論：異なる原理認め共存を 憎悪表現に揺れる移民社会」共同通信社配信, 2015年1月16日(掲載紙：信濃毎日新聞, 佐賀新聞など6紙)。

「識者評論：関係国の苦悩, まるで嘲笑」共同通信社配信, 2015年1月26日(掲載紙：南日本新聞, 四國新聞, 西日本新聞, 東奥新聞)。

現代のことば「私たちは何を知らないのか?」『京都新聞夕刊』2015年1月27日。

「識者評論：イスラムを知り信頼醸成を一筋の光, 夫人の言葉に」共同通信社配信, 2015年2月5日(掲載紙：四國新聞, 高知新聞, 山陽新聞, 熊本日日新聞, 山形新聞, 中國新聞)。

「イスラムとどう向き合うか 欧米主体の戦争に懐疑的 西洋とのはざまトルコの姿勢」『毎日新聞夕刊』2015年3月19日。

「欧米との協調とISの脅威複雑な問題に直面するトルコ」25頁, 「衝突は米同時多発テロ以降西洋とイスラムの対立の本質」『エコノミスト』, 2015年3月24日, pp.32-33。

・招待講演など

「中東崩壊の危機 なぜ起きたか どこへ向かうのか?」日本トルコ文化交流会, 2014年7月22日, 東京。

JAPONYA-TÜRKİYE ORTAK SEMPOZYUMU, JAPONYA VE TÜRKİYE : NEREDEN GELDİK, NEREYE GİDİYORUZ?"

「宗教は紛争の原因か—中東紛争の—世紀」電気学会 B 部門大会, 2014年9月11日, 同志社大学。

「Orta Doğu Kaynaklı İstikrarsızlık ve Türkiye'nin Rolü, Japonya'dan birbakış」 日本政府・トルコ共和国政府, 2014年9月22日, トルコ・アンカラ。

「イスラーム国と現在の中東情勢」 マスコミ倫理懇談会, 2014年12月8日, 東京。

「最近の中東情勢とトルコ一邦人の危機管理」 日本・トルコ協会, 2015年3月6日, 東京。

「いま, イスラムを知る」 関西プレスクラブ, 2015年3月30日, 大阪。

中西 久枝

・著書

“The Construction of the Sanction Regime Against Iran: Political Dimensions of Unilateralism,” Ali Z. Marossi & Marisa R. Bassett eds., *Economic Sanctions under International Law: Unilateralism, Multilateralism, Legitimacy, and Consequences*. Berlin & Heidelberg: Springer, 2015, 249p. (執筆担当 pp.23-41.)

・論文

「平和構築と地域研究—今何が求められているか」『地域研究』Vol.14, No.1, 2014, pp.106-121(査読あり)

“The Challenges of State Security and National Integration in the Middle East,” Conference Proceeding of Challenges to Democratization in the Middle East: The US, Turkey, and the Arab World, at the Auditorium of New York Institute of Technology, New York, April 28, 2014, pp.1-6.

・口頭発表

「中東の安定化と米国・イラン関係の現状と課題」クラブ関西, 2014年7月3日。

“Iran’s Nuclear Problem,” Department of Asian and Middle Eastern Studies, Duke University, November 7, 2014. (招待講演)。

“Economic Sanctions against Iran and Security Policies of Iran,” Department of Asian and Middle Eastern Studies, Duke University, November 14, 2014.(招待講演)。

“The Construction of the Sanction Regime against Iran: Political and Strategic Dimensions,” Center for Iranian Studies, Columbia University, December 3, 2014. (招待講演)。

“The Linkage between Nuclear Negotiations and the US-Iran Conflict and Cooperation,” at International Conference on “Iran, America and Islamic

State: Emerging Challenges in the Middle East, Views from Iran,” Doshisha University, February 16, 2015.

「米国とイラン-不安定化する中東情勢における対立と協調」関西民放クラブ 定期懇話会，2015年2月6日。

・その他

岐路平和憲法「『自衛権』拡大解釈の恐れ」『京都新聞』2014年6月19日，23面。

「読者の見方：厳しい『72時間以内』対米協調なら続く」『中日新聞』2015年1月21日，26面。

「長期戦より時間区切ることを選択」『産経新聞』2015年1月28日，25面。

・社会活動

総合地球研究所 プロジェクト評価委員会副委員長

人間研究機構 「イスラーム地域研究」部門評価委員会委員

○

岡野 八代

・共著

「安全保障の神話からケアの倫理へ—他者に依存する自己」君島東彦・名和又介・横山治生編『戦争と平和を問い直す』法律文化社，2014年，pp.141-155。

「フェミニズムとケア—つながりから社会正義へ」川崎修編『岩波講座 政治哲学6 政治哲学と現在』岩波書店，2014年，pp.127-152。

「集团的自衛権を支える安全保障概念を問い直す」奥平康弘・山口二郎編『集团的自衛権の何が問題か—解釈改憲批判』岩波書店，2014年，pp.267-282。

「〈分配か承認か〉の手前で—ケアの倫理からの再考」越智博美・河野真太郎『ジェンダーにおける「承認」と「再配分」—格差，文化，イスラーム』溪流社，2015年，pp.89-111。

高橋哲哉・岡野八代『憲法のポリティカー—哲学者と政治学者との対話』白澤社，2015年，256頁。

・論文

「ケアの倫理の源流へ」『倫理学研究』44号，2014年8月，pp.14-25。

「「慰安婦」問題が突き付けた安全保障問題—「安全保障」から「平和」へ」『ジェンダーと法』11号，2014年8月，pp.93-104。

「なぜ，「慰安所」制度は軍事的性奴隷制度なのか」『世界』11月号，2014年10月，pp.96-104。

「戦争に抗する一身体性/ 具体性から発する社会の構築へ」『現代思想』11月号, vol.42, no.15, 2014年11月, pp.93-109。

“The Political Meaning of a People’s Tribunal” 『女性・戦争・人権』13号, 2014年12月, pp.135-149。

・翻訳

アイリス・M・ヤング著『正義への責任』岩波書店, 2014年, 296頁(池田直子氏と共訳)。

・その他

書評「「正義の倫理」か「ケアの倫理」かの二元論を超えて—ケアの倫理から民主主義を再興する」ファビエンヌ・ブルジュール著『ケアの倫理』『図書新聞』3154号, 2014年4月12日。

書評「四半世紀を耐える, フェミニズム政治理論の古典」キャロル・ペイトマン著『秩序を乱す女たち?』『図書新聞』3181号, 2014年11月8日。

書評「『女性官僚の歴史—古代女官から現代キャリアまで』総合女性史学会編『総合女性史研究』第32号, 2015年3月, pp.64-68。

・学会報告

大会シンポジウム「生き方と理論の往還からの福祉社会の構造：ケア・贈与・共同性をめぐって」報告「ケアの倫理における存在論と社会論」福祉社会学会, 東洋大学, 2014年6月29日。

“The Constitutionalism in a Crisis: Reactionary Politics and its Effect to Gender Politics in Japan,” in *Frauenchimsee*, July 8, 2014, International Working Group on the Legal Profession of the Law and Society Association. 部門別報告コメント「『ことばを手にする』授業を作る—憲法をテキストとして—」高校生活指導協議会, 筑波学院大学, 2014年8月11日。

“Denying the Past is to Close the Future: The Case of Japanese Revisionists’ Politics,” in Hyderabad University, India, August 18, 2014, World Women’s Conference.

“Closing Remarks” to the Workshop, “Complexities of Gender Oppression in Japan,” August 19, 2014, World Women’s Conference.

コメント「女性とジェンダー」日本政治学会, 早稲田大学, 2014年10月11日。

コメント「「慰安婦」問題と「償い」のポリティクス—「女性のためのアジア平和国民基金」の事例から」『女性・戦争・人権』学会, 同志社大学, 2014年10月26日。

大会シンポジウム総論「ケアの倫理の社会的可能性」シンポジウム『ケアとジ

エンダー』ジェンダー法学会，奈良女子大学，2014年12月6日。

・その他の講演

「男女共同参画は社会科学を変えるか？」日本学術会議，2014年5月31日。

「ケアの倫理から考える，社会構想」ノートルダム清心女子大学，フェリーチェ文化講座，2014年6月7日。

「安倍政権の「いのち」に対する蔑視・軽視を許さない」8.6. 広島平和へのつどい，2014年8月6日。

“Recent Movement of the Japanese Government and Japanese Right-Wing Nationalists and their Recognition of History”，国際シンポジウム『戦時における性暴力根絶のための国家責任履行と市民社会の役割』韓国女性政策院主催（ソウル），2014年8月14日。

Presentation, “Why I Met the Ethics of Care” at the Third Panel of Modern Japan History Workshop, University of Pennsylvania, October 18, 2014.

「どうする自衛隊—憲法9条のもとで日本の防衛を考える」向日市憲法フェスタ2014，2014年11月16日。

「集団的自衛権がもたらす世界」青年法律家協会京都支部，2014年11月21日。

「土井たか子さん追悼・憲法集会」憲法勉強会ベアテの会，2015年2月7日。

「日本軍「慰安所」制度は，性奴隷制度である」静岡県労働組合評議会，2015年2月8日。

「憲法九条から考える非暴力・反暴力の思想について」宗教者九条の和(イグナチオ教会)，2015年2月21日。

太田 修

・共著

「초기 한일 국교정상화 협상에서의 재일조선인 법적 지위와 처우」동북아역사재단편『한일협정 50 년사의 재조명Ⅲ-일제식민지책임 판결과 한일협정체제의 재조명-』동북아역사재단，2014년 6월 22일，223-261쪽(「初期韓日国交正常化交渉での在日朝鮮人法的地位と待遇」東北アジア歴史財団『韓日協定50年史の再照明Ⅲ-日帝植民地責任判決と韓日協定体制の再照明-』東北アジア歴史財団，2014年6月22日，pp.223-261).

・論文

「朝鮮戦争停戦協定前夜，強化される植民地主義－第2次日韓国交正常化交渉での在日朝鮮人の法的地位と処遇」『朝鮮大学校学報』Vol.24，2014年6月30日，pp.49-80。

「第1次日韓国交正常化交渉における在日朝鮮人の法的地位と処遇－植民地主義，分断，冷戦の交錯」『社会科学』第44巻第2号，2014年8月29日，pp.1-30。

・その他

「歴史としての朝鮮半島と日本」『E ASIA PT News Letter』Vol.4，2014年6月20日。

「戦後補償と日韓関係の今を考える－強制動員被害者への韓国司法の最新動向 “日韓請求権で解決済み”を否定」重慶大爆撃の被害者と連帯する会・東京『重慶大爆撃 会報』No.30，2014年6月20日，pp.4-15。

「近現代の京都と朝鮮－在日朝鮮人の生活と文化」『高麗美術館』No.100，2015年1月1日，pp.10-11。

「<資料>日韓会談文書全面公開を求める裁判に対する陳述書」『歴史学部論集－清水稔先生退職記念号(佛教大学歴史学部)』第5号，2015年3月1日，pp.83-110。

・学会報告

「식민지 지배와 전쟁을 둘러싼 또 하나의 폭력에 대하여」／동북아역사재단，세계국제법학회 한국본부 주최 한일협정 50년사의 재조명 국제학술회의 「일본식민지배 피해자의 구제를 법정정책 과제」(International Conference on Reexamining Court Ruling on Colonial Responsibilities and the System of the Korea-Japan Agreement of 1965)，동북아역사재단 11층 대회의실，2014. 6. 20(「植民地支配と戦争をめぐるもう一つの暴力について」東北亜歴史財団，世界国際法学会韓国本部主催 韓日協定50年史の再照明 国際学術会議「日本植民支配の被害者の救済を目指す法政策的課題」，韓国ソウル東北亜歴史財団 11階大会議室，2014年6月20日)。

・招待講演など

「京都留学時代の鄭芝溶と詩作－植民地下の分裂」国際学術大会「東アジアの他者認識と東アジア言説の課題」，同志社大学弘風館地下会議室，2014年9月19日(金)，20日(土)。

小山 田英治

・共著

"Anticorruption Measures the Japanese Way: Prevention Matters", Jon S. T. Quah and Chilik Yu, *Asian Education and Development Studies*, Vol.4, No. 1, 2015年1月, pp.24-50.

・その他

“National Integrity, the next step of the anti-graft fight”, *Jakarta Post*, March 31, 2015.

・学会報告

「実務と研究の間の遙かなる旅—キャリア転身経験者に聞く」国際開発学会第15回春季大会, 京都, 2014年6月21日。

“Anti Corruption Measures the Japan Way: Prevention Matters”, Workshop on “Fighting Corruption in Asian Countries: What’s Wrong and What Needs to be Done to Enhance their Anti-Corruption Measures?” Shih Hsin University, Taipei, Taiwan, Friday, June 27, 2014.

・招待講演など

“Transparency, Integrity and Accountability Mechanism in Rehabilitation Process”, Building Back Better Through Good Governance and Green Rehabilitation Mechanisms, University of the Philippines, Los Banos, March 5, 2015.

"Anti-Corruption measures- New Expectations for Counter Corruption Commission and its Role", Knowledge and Experience Sharing: Restoring Democracy in Ukraine, Diplomatic Academy of Ukraine/JICA (in Kiev, Ukraine), March 25, 2015.

「開発途上国の透明性と説明責任」公務員人事行政セミナー, 人事院/JICA, 東京, 2014年6月19日。

“Development and Governance” 環インド洋経済圏貿易投資促進研修, JICA, 神戸, 2014年9月3日。

“Corruption and Development”アフガニスタン国未来への懸け橋, 中核人材育成プロジェクト合同プログラム, JICA, 広島, 2014年9月12日。

“Corruption and Development”アフガニスタン国未来への懸け橋, 中核人材育成プロジェクト合同プログラム, JICA, 広島, 2014年9月15日(2回目)。

「開発途上国の透明性と説明責任」人事院/JICA「上級国家行政セミナー」, 東京, 2014年11月12日, 26-28日。

・社会活動

Country Reviewer, “Status of Japanese Political Financing”, *Global Integrity*, Washington D.C, USA, January 2015.

日本国連学会東アジアセミナー 実行委員長(2014年12月12-14日)

国際開発学会第15回春季大会 実行委員長(2014年6月21日)

日本国連学会 理事

Transparency International Japan 理事

一般社団法人広島平和構築人材育成センター(HPC) 評議員

平和構築研究会 理事

S

銭 鷗

・論文

「“永観” “観堂” 餘話」『桃之宴—京都桃會與漢學新詮』, 新文豊出版公司, 2014年4月, pp. 381-391。

・招待講演など

「日本東方学与中国新古典研究」重慶大學人文社科高等研究院, 重慶, 2014年11月27日。

「從儒學的普遍性到脫亞入歐—幕末明治的思想世界」重慶大學人文社科高等研究院, 重慶, 2014年11月24日。

T

富山 一郎

・単著

『流着の思想』(ハングル 沈正明訳)Geulhangari Publishers, 2015年, 422頁。

・共著

「戦場動員」北村嘉恵・白取道博編『戦争と教育』日本図書センター, 2014年, pp.77-129。

・論文

「戒厳状態における発話行為を考える」(ハングル 沈正明訳)『言葉と弓』(ハングル)6号, 2014年10月26日, pp.203-214。

・その他

「国家概念を越え創造—独立を発明する」『沖縄タイムス』2014年10月23日, 14面。

「排除され続けた島—独立を発明する」『沖縄タイムス』2014年10月24日, 20面。

座談会「テロルの季節」(池田浩士, 岡真理, 伊藤公雄らと)『インパクション』
197号, 2014年11月30日, pp.20-67。

W

Fanon Che Wilkins